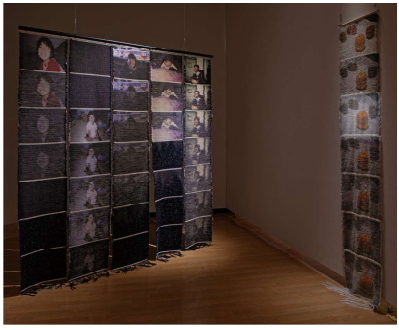

あいまいにしか思い出せない。

岩田　智代

平織、プリントした綿布、綿糸

伝統的な「織」により時間と記憶を表現する。
経(たて)糸は時間軸、緯(よこ)糸は記憶だ。
緯糸には、写真をプリントした布を 1cm 幅のテープ状に裁断したものを使用する。
作品 1『ノイズ』には、自身の過去の写真を用いる。
1 枚目を織り上げたらその写真を撮影し、布にプリントして緯糸として裁断し、次の 1 枚を織る。
これを繰り返すことで、私の過去は次第に遠く不鮮明になる。
白から黒のグラデーションに染めた経糸を用いることで、記憶が暗転して消えていく様子を表現する。
緯糸に静物写真を用いる作品 2『りんごとオレンジ』では、オレンジが曖昧な記憶の中で静止する時間とその鮮明な一瞬を表す。
オレンジを画面の定位置に留まらせるために、緯糸の通し方を調整し工夫している。
デジタル技術で簡単に表現できるものを、私は糸を用いた手作業で確認し、表現する。